



秩父市コミュニティ・スクールだより

「**地域とともにある学校**」を目指して

No.11

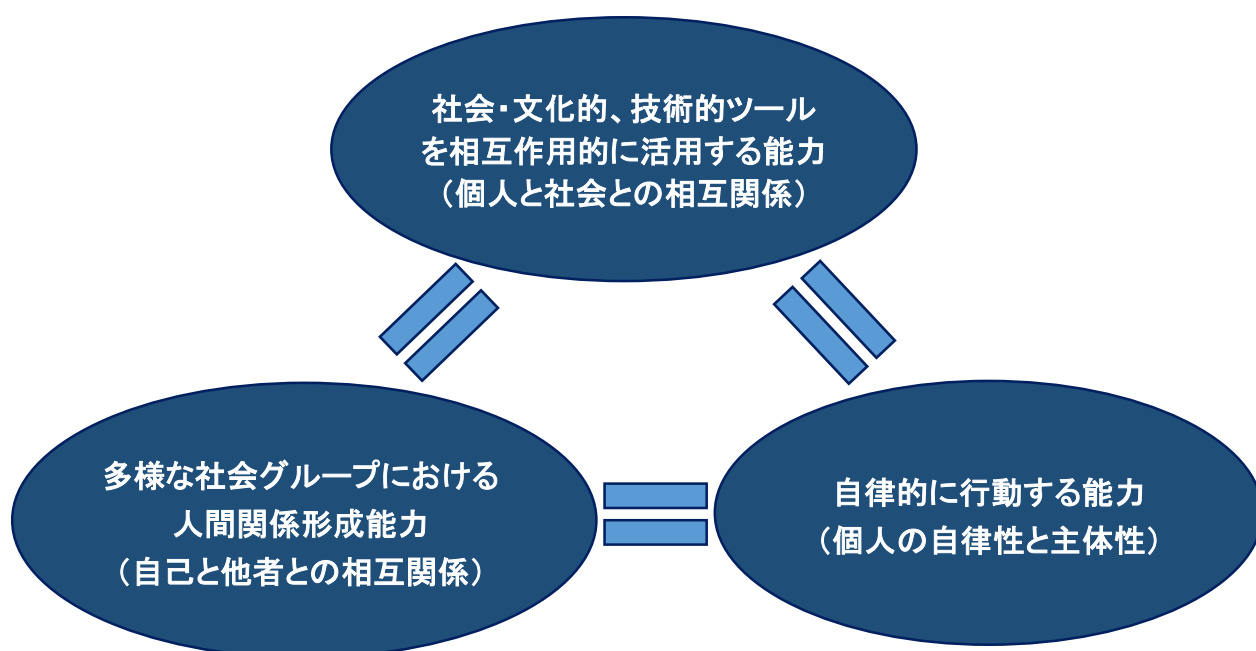
生きる力とコミュニティ・スクールの役割

近年、学力に関する話題を度々耳にしますが、その中の一つに、OECD（経済協力開発機構）が進めている PISA（ピサ）と呼ばれる国際的な学習到達度に関する調査があります。この調査では、単なる知識・理解に止まらない、それらを活用する能力（キー・コンピテンシー）が求められます。（PISA 型学力と呼ばれる：下図参照）

(OECD の PISA 型学力)

3つのキー・コンピテンシー

単なる知識や技能の習得だけでなく、それらを活用し、課題に対応できる能力



上記の PISA 型学力は、「生きる力」にも反映されています。大切なことは、これらの学力は、学校教育だけでなく、社会との関わりの中で効率よく身に付けることができるということです。まさにコミュニティ・スクールの役割と合致します。

「生きる力」の育成には社会との関わりが不可欠です。

この「たより」は秩父市の皆様に、「コミュニティ・スクール」を知ってもらうためのものです。

「国際的な学習到達度に関する調査（PISA）」についてまとめました。

1. 義務教育修了段階（15歳）において、これまでに身に付けてきた知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測る。
日本では、高校1年生が対象
2. 3年に1度行われる。（抽出調査）
3. 読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野と生徒質問紙、学校質問紙による調査が主な調査対象

コンピテンシーについて

OECDでは、社会経済の持続可能な発展と世界的な生活水準の向上のために、子供たちの将来に必要なコンピテンシー（能力）を身に付けさせることが重要だと考えている。そのため、身に付けるべきコンピテンシー（能力）の、国際間で共有できる正確な定義を行うための研究（DeSeCo：コンピテンシーの定義と選択 2003年最終報告）を行った。

これが、コンピテンシーの概念枠組みの基本となっている。

コンピテンシーの中で、特に身に付けるべき重要なものを、「キー・コンピテンシー（主要能力）」と呼び、3つのカテゴリから成っている。

1. 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力（個人と社会との相互関係）
 - ▶ 読解力、数学的活用能力、知識・情報活用能力、技術活用能力
2. 多様な社会グループにおける人間関係形成能力（自己と他者との相互関係）
 - ▶ 人間関係を構築する能力、協調する能力、利害を解決する能力
3. 自律的に行動する能力（個人の自律性と主体性）
 - ▶ 大局的に行動できる能力、自己の将来設計をする能力、自己の責任や権利、限界などを主張する能力

この3つのキー・コンピテンシーの枠組みの中心にあるのは、個人が深く考え、行動することの必要性である。深く考えることには、目の状況に対して特定の定式や方法を反復継続的に当てはまることのできる力だけではなく、変化に対応する力、経験から学ぶ力、批判的な立場で考え、行動する力が含まれる。

（OECD、国立教育施策研究所、文部科学省の各HPを参考にしました。）

秩父市教育委員会学校教育課

電話 0494-25-5228 ホームページ <http://www.city.chichibu.lg.jp/1900.html>